

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】平成18年2月2日(2006.2.2)

【公表番号】特表2005-515371(P2005-515371A)

【公表日】平成17年5月26日(2005.5.26)

【年通号数】公開・登録公報2005-020

【出願番号】特願2003-560406(P2003-560406)

【国際特許分類】

F 16 H 29/18 (2006.01)

F 16 D 41/07 (2006.01)

【F I】

F 16 H 29/18

F 16 D 41/07 Z

【手続補正書】

【提出日】平成17年12月9日(2005.12.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

サテライト型伝動装置であって、互いに同心的な又は偏心的な任意の位置へ移動させることで種々の回転数比の伝達を可能にする入力エレメントと出力エレメントとを有し、該入力エレメントと出力エレメントとの一方が周方向溝(12)を有するリング円板(10)として構成されかつ他方が半径方向溝(14)を有する星形板(13)として構成されており、前記リング円板(10)に連結されかつ伝達ピン(21, 52)を介してトルクを前記星形板(13)に伝達する複数のサテライト体(15, 35, 50)を有している形式のものにおいて、負荷円弧によって決定される有効な半径の変化による不等速性を軽減又は減少させるために各サテライト体(15, 35, 50)が半径方向溝(20, 51)を有し、該半径方向溝(20, 51)内で前記伝達ピン(21, 52)が、負荷円弧内部にて、少なくともほぼ前記リング円板(10)の中心に対し相対的に移動可能であることを特徴とする、サテライト型伝動装置。

【請求項2】

サテライト型伝動装置であって、互いに同心的な又は偏心的な任意の位置へ移動させることで種々の回転数比の伝達を可能にする入力エレメントと出力エレメントとを有し、該入力エレメントと出力エレメントとの一方が周方向溝(12)を有するリング円板(10)として構成されかつ他方が半径方向溝(14)を有する星形板(13)として構成されており、前記リング円板(10)に連結されかつ伝達ピン(21, 52)を介してトルクを前記星形板(13)に伝達する複数のサテライト体(15, 35, 50)を有している形式のものにおいて、星形板(33)の半径方向溝(36)が該円板に固定されておらず、不等速性を軽減又は減少させる相対運動を星形板(33)の上で行なうことができる別の半径方向案内(35)の上に設けられていることを特徴とする、サテライト型伝動装置。

【請求項3】

サテライト型伝動装置であって、互いに同心的な又は偏心的な任意の位置へ移動させることで種々の回転数比の伝達を可能にする入力エレメントと出力エレメントとを有し、該入力エレメントと出力エレメントとの一方が周方向溝(12)を有するリング円板(10)

)として構成されかつ他方が半径方向溝(14)を有する星形板(13)として構成されており、前記リング円板(10)に連結されかつ伝達ピン(21,52)を介してトルクを前記星形板(13)に伝達する複数のサテライト体(15,35,50)を有している形式のものにおいて、星形板がこの上に個別に固定された半径方向セグメント(62)を備えた保持円板(63)から成り、該半径方向セグメント(62)が伝動装置軸に対しコリニアに位置する軸を中心として回転でき、その際、半径方向セグメント(62)が保持板(63)に対し面平行な位置を維持することを特徴とする、サテライト型伝動装置。